

ティーチング・ステートメント

所属 薬学部 薬学科

名前 前田 伸司

作成日 2024年2月26日

【責任】

講義は、微生物学、免疫学を担当している。卒業研究では微生物の細胞壁合成酵素やゲノムDNAの精製・調製法に関する研究を指導している。また自分の研究として、Crispr-Cas9 システムを利用した抗酸菌の遺伝子破壊による変異株作製法の確立に関する研究を行っている。

【理念】

正確な知識修得のための教育を行う。これは、広い選択肢の中から就職先を選べるように資格取得を目指したものである。医療系の職場で働くためには、国家資格は必須なものである。また、実際に働く臨床の現場では、正しい判断を迅速に下す必要がある場面に遭遇すると考えられる。そのような判断をするために必要な薬の作用機序などの基礎知識を持っているだけでなく、直ぐに取り出せるように整理しておくことが必須となる。また、直ぐには判断出来なくても、参考となる本や検索のキーワードなどを発想できる基礎的な知識の修得の補助も重要な内容である。

【方針・方法】

講義の時間は限られており、効率よく進めるために板書はせずパワーポイントで説明を行っている。また、講義に使用するスライドは、前日まで講義資料として Moodle 上にアップして予習を促している。また、講義の後半に演習問題や課題を配布してあらかじめ解いてもらい、講義で解説を行っている。

方針1：正確な知識を修得してもらうために

方法①：対面講義でも書くのに時間がかかる板書はせず、あらかじめ準備したパワーポイントを使用する。スライドの一部には空欄を作っておきその部分は、講義の中で用語を埋めてもらっている。

方法②：スライドに使用する図は、多くの教科書を確認して最も理解しやすく説明しやすいものを厳選する。

方法③：講義で使用するスライドは前日までに Moodle にアップする。講義で使用するカラー版のスライドが必要ならあらかじめ自分で印刷し準備するように促している。対面講義では白黒の印刷プリントを配布している。事前学習ができる環境をできるだけ作る。

方法④：講義動画をアップロードして、復習に使用できるように工夫している。

方針2：迅速な判断のための知識確認と整理

方法①：課題問題を解くことで、教科書に記載されているが講義では触れなかった範囲の学修も促す。

方法②：講義期間の後半で、演習問題を配布して実際に国家試験等で問われることが知識として定着しているか確認する。また、時間が許せば講義内で解説を行う。

【成果・評価】

定期試験問題の平均点を 75 点程度に設定しているため、再試対象者の数は減少している。大学で行っている講義アンケートを参考にして、次年度以降の講義設計を行う。
現在のところ明確な成果や評価を行う手法が確立されていない。また、課題や定期試験の難易度が低いので、予習や学習時間は短くなっていると思われる。

【目標】

短期目標：次年度の講義では、講義スライド内容と教科書の解説部位が明確化されるように、スライド上に教科書の掲載ページを明示する。

長期目標：利用しやすい微生物学と免疫学など含む感染症に関連した教材の作成を行う。